

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

12月初旬、特別養護老人ホーム白嶺で長野県長寿社会開発センター白馬グループのメンバーがボランティア活動の一環として作

業。

白馬グループは、大北シニア大学等の卒業生が、地域参加を積極的に展開するために集まった会だ。昨年から、小谷村の皆さんも加わり、会員も年々増加している。

今回の作業の目的は、施設の雪囲いが中心。倉庫から軽トラックの荷台にベニア板を乗せ、建物軒先にできる水柱の、落下による窓の破損を防護する作業だ。この軽トラの部隊は、作業で大きな力を毎回発揮している。農作業には欠かせない軽トラは、地域を支える事も確かだ、メン

バーも、軽トラで乗り付け、何の謝礼もないが、快く提供してくれる。玄関前の落ち葉の片づけを含め、作業は短時間で終わってしまい終了の段取りに。小谷村のメンバーが持つ

れた現場に向かい、作業を始める。この心意気が会を継続しているのだと痛感する。今年、10月に地域で障がいがありながら活動する就労継続支援B型事業所「クロス

交を深めた。会では、「地域で障がい者と共に」を合言葉に、会員一人ひとりが地域との絆を大切にしている。これまで障がいは、特定の問題としてとらえられてい

だからこそ、自分たちができる事から取り組もうとの意識が生まれている。地域の話題の中で、小谷村に隣接する白馬村北部の地域に多数のサルが出没、被害が出ているとの情報。これ

まで、他人事のように思えた内容が身近に。野生動物との共存の難しさを改めて感じた日でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

身近な地域社会で協働の意識を持って自らの力を発揮してみませんか

てきた、熟した柿を樂しみながらの地域の話題もメンバーの笑顔を引き出す。会話の中で、施設内の桜の折れた枝の話になると、軽トラから、のこぎりが登場。依頼された作業ではないのに、全員のメンバーが100%離

ロード」と協働作業でセイダカアワダチソウの駆除。クロスロードのメンバーは、多くの日数で駆除作業。この貴重な取り組みを地域全体で支援してほしいと願ってしまう。8月には、マレットゴルフと焼肉パーティーで親

た。しかし超高齢社会による社会保障費の問題は、これまでの考え方には対応できない事を国民自らが感じ始めている。施設入所に対応した制度から、地域で対応する制度へと急速に突き進んでもいい。シニア大学で学ん



「有難う」「ご苦労様」「こんにちは」の言葉は、ボランティア活動をより一層楽しいものにしてくれる